

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームびっちゅう		
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373200298&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・場所的に、のどかな自然環境に恵まれ、四季折々の景観を味わうことができる。天気の良い日には外へ散歩に出かけるが、天気の悪い日にはホーム内の廊下(長さ:約30m)や屋根付きのテラス(長さ:約35m)を歩き運動することが可能。またテラスにて外気浴を行ったり、暖かな時期には、駐車場にイスとテーブル、パラソルを広げ、外で昼食やお茶を楽しんだりしている。
 ・ホーム内、また近所の空き地に、畑や花壇を設けており、畑仕事や草花の世話を共に行なっている。週に1.2回は買い物に出かけ、外出支援や気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々に囲まれた、四季を肌で感じ、美しい景観を愛でる事のできる地域にホームはある。医療法人が母体であり、地域の医療機関との連携も図られており、利用者や家族への医療・健康面での安心提供が為されている。市からの委託事業として協力関係も良好であり、平成22年度はスプリンクラーの設置も約束されている。職員は地元の方が多く、地域性や様子も熟知している中で、ホームの利用者と地域の方々との交流も、日々の暮しとして自然体に行なわれている。職員は利用者一人ひとりの特性を良く理解しており、それぞれの思いを尊重した支援を心がけている。昨年の半ばより管理者の交代とホーム長が新たに着任しており、今後はさらに職員が意見を出し合える環境作りが為され、発展される事を願う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の作成とホーム内の3箇所に掲げてはいるものの、皆で積極的にそのための実践に取り組むということはないが、スタッフの一人一人がそれぞれその思いを持ってケアを行なっている。	理念は玄関やタイムカードの側などに掲げられ、いつでも確認が出来るように為っている。理念を取り上げての話し合いはしていないが、日々の申し送り時やメモでの伝達等を通して、理念に沿った支援を行っている。	理念に沿った年度や月々の目標を具体的に設定して、日頃の支援実践に携わるなどと工夫をし、今以上に職員の理念についての意識が高まり、利用者の支援に反映されることを期待したいと思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけており、その際、地域の方たちと挨拶を交わしたり、話を行ったりしている。地域での行事に参加している。	地区の小中学校との交流があり、運動会や学芸会に出向いたり、ふれあい訪問として来訪がある。また日頃、商店へ買い物に行ったり、地域の文化祭に参加したり、地区のボランティアの方が来られたりと、地域との交流が自然体で為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に一回だけ、地域局からの依頼で、グループホームでのケアや認知症に関する発表・報告を行なっている。小学校・中学校・高校・大学からのボランティア実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践するよう努力している。	コミュニティ協議会長や老人会、市の職員、民生委員、法人職員、管理者などが参加して2ヶ月に1回開かれている。ホームの現状や市からの報告、今後の取り組みなどを話し合いサービスの向上に努めている。家族の参加が難しい現状である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡を取っているわけではなく、運営推進会議の際や、介護認定更新の機会等に市の職員、地域包括担当者に報告、相談をしている。	市の職員が運営推進会議に参加しており、日頃よりの情報交換が円滑に為されている。中央包括支援センターへ相談する事もあり、市との協力関係が日頃から構築されている。また介護相談員の受け入れもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、事故防止のためせざるを得ないが、利用者が玄関に行かれたり、外出の訴えをしたりする時には可能な限りその求めに応じ一緒に出掛けるようにしている。	利用者の状況に応じてその都度話し合い対応している。身体拘束に関する書籍を自由に閲覧出来るように事務所に置いたり、プリントを配布する等して、職員の正しい理解・認識に努めている。現在該当者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協会主催の研修会に参加し、ホーム内でもプリント配布・説明等により意識を持ち対応するよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しており、個々の必要に応じるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そのための機会を設けてはいないが、意見要望があった時、反映するよう努力している。	家族の来訪時や連絡時に意見や要望を伺うように心がけている。利用者の支援に関しては「もう少し外出させて欲しい」などの要望があり、迅速な対応をしている。運営面に対する要望は出難いが、意見の反映に努めたいと思っている。	さらに家族との交流を深め、気軽に意見交換や要望を伺う為にも、運営推進会議への参加依頼をしたり、アンケートを定期的に取りするなど、今以上に家族からの意見が出やすい環境作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのための機会を設けてはおらず、普段の会話の中に意見や提案が上がる事が多い為、それを汲み取り反映するよう努めている。	年に2回不定期で全体の職員会議が実施されているが、日頃の申し送り時や支援の中で随時話し合いが為されている。ホーム長や管理者は職員の意見を汲み上げ、法人の担当者と連携し、その反映に努めている。	職員の意見に耳を傾け、汲み上げる努力が為されているが、今後はさらに職員が意見交換出来る機会を定期的に増やす等して、より一層の職員相互の理解と意思統一が図れた支援提供と為られる事を願う。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なされていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なされていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会をほとんど設けてはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に合わせその都度対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行なうよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行なうよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合った出来ることを一緒に行なったりはしているが、時に職員のペースになってしまう時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努力してはいるが、なかなか良い関係までは築けていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元居られた町内の方などに面会に来てくださるよう声掛けはしている。	実家の近所の方や友人が訪れたり、買い物に出掛けた時に知人に会ったりしている。同級生が会いに来られる方や家族と共に墓参りに出かける方もいる。職員は利用者が大切にしてきた関係がこれからも継続できるような支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる際、その方の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃なされている会話や直接してこられる相談事、行動などにより把握するよう努めている。	利用者の今までの生活や日頃の言動・会話より、思いを汲み取るように心がけている。意思表示困難な場合は家族からの情報や今までの出来事、表情などで判断しており、一人ひとりの思いを大切に支援を常に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なるべく面会時にまた、電話にてご家族の意見や思いを聞き、反映させるようにしている。	家族の来訪時に意見や希望を伺うようにしており、職員からの意見も取り入れながら、6ヶ月毎に更新作成している。職員全員がいつでも確認出来るように棚のケースヘファイリングしており、3ヶ月毎のモニタリングで現状に即した作成を図っている。	計画作成は適切に為され、努力を感じる。が、今後は職員が利用者のニーズを十分把握し、情報共有化を図り、日々の支援に携われるように、職員全体での話し合いの機会を増やされては如何かと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行なうよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ対応している。基本的には、家族による同行受診としているが、ほとんどの方に関し、職員同行にて受診を行なっている。	入居時に話し合っているが、近くの診療所や地元の病院を希望される場合は状況により家族か職員が同行している。受診後は健康記録表に記録し、情報の共有を図っている。協力病院よりの往診もあり、医療面での安心提供に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、定期的に必要な物を届けたり、見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している。	入居時に家族との話し合いを行っているが、現状ではホームの方針として、看取りの支援は実施していない。医療連携体制のもと、利用者の状態の変化に応じて、適切な対応が為されるように心がけて、ホームとして出来る事を家族と共に行いたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行なっておらず、実践力に関しては不安な面がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成と、年に最低2回は利用者とともに避難訓練を行なっている。地域の方々への協力を呼びかけている。	ホームの消防計画に従い、年に2回防火避難訓練を実施しており、地域の消防団や消防署の指導・参加も頂いている。また運営推進会議でも話し合わせ、地域との協力体制を築いている。平成22年にスプリンクラーが設置予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導、介助が必要な場合、他の方々にそれと分からないよう、言葉掛けを行なうように心がけている。、戸を開けっ放しにされている時、他の方の部屋に間違っ入られる時など、さりげない対応をしている。	一人ひとりを尊重しながら、親しみを込めた対応を心がけている。利用者同志の人間関係に気を付け、失禁事などに非難の的に為らないように、さりげなく状況によっては他の方々を誘導するなど、本人の誇りやプライバシーを守るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく話を聞くようにし心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の個々のペースにあわせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が持ってこられている衣類の中で、上下の組み合わせの声掛け、乱れがある場合には、他者のいないところにて正すように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて、それぞれの出来ることをお願いし、一緒に行なうよう心がけている。(生協の注文書によりメインのおかず選び、調理、盛り付け、片付け等)	献立は生協の食材購入チラシを参考に決めている。手作りの家庭料理が出され、利用者は包丁を使ったり、大根を下ろす、下膳、洗い物などの自分の出来る事を手伝っている。行事に巻き寿司と一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいの声掛け、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排泄のパターンを掴むようにし、声掛け、誘導、介助を行なっている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、その方に合った声かけや誘導に努めている。病院よりおしめで戻った方が支援により自立対応となった事例もある。失禁事は他の方の目をそらし、気付かれないような対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かし軽い運動により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようになっており、基本的には午後からとなっているが、希望や必要に応じ、午前中に入ることもある。拒否される方には、無理には勧めてはいないが、2,3日に一回は入浴していただくよう試みている。	利用者の意向を大切にしており、希望により毎日入浴される方もいる。基本的には一人ずつ入って頂く様にしているが、気の合う方と二人で入浴する時もある。無理強いせず、気分良く楽しい入浴時間が提供出来るように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員すべてが個々の薬を把握してはいない。服薬の支援に関しては行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行なうよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはそのように努めている。(散歩、買い物、ドライブ等)	恵まれた自然環境の中で、散歩しながら山菜を採りに出掛けることもある。近所への買い物やドライブがてらに花見や地域の祭り、夜市、盆踊り、名勝地などへ出掛けている。家族の参加が減少しているが、写真や便りを出したり、アルバムで保存している。ボランティアの協力もお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、3名がお金の所持をされている。希望に応じ使えるよう支援までは頻繁に行なっていない。年に数回、イベントにて出店や屋台での使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	していただいている。(主に電話)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なかなかできていない。	長い廊下部分の天井がかなり高い等の家庭的雰囲気が出難い部分もあるが、居間は床暖房が入り、畳のコーナーにはこたつが置かれ、そこで昼食を摂る利用者もいる。対面式キッチンで職員ともお互いにふれあいを感じながら利用者は過ごしており、居心地よい空間であると思える。	設計者の思い入れを随所に感じる既存の建物であるが、職員は今以上に温かい家庭的な場を提供したいと思っている。今後は職員間でアイデアを出し合い、利用者さらに喜んで頂けるような共用空間作りが為される事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、廊下に長椅子を置いたり、テラスに椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていた物品の持込をしていたり、ベッドの使用だけでなく、希望や本人の生活歴を考慮して、畳に布団を敷いて寝られるようにしている。	利用者が以前から所持していた仏壇やテレビ、小引き出し、家族の写真などが持ち込まれており、それぞれの生活スタイルが尊重された居心地よく過ごせる場と為っている。各居室からベランダに出る事が出来、採光や換気への配慮も為されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりや持ち手の増設を行い、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		